

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900333		
法人名	有信アクロス株式会社		
事業所名	ラ・プランス樹楽醍醐 (2階)		
所在地	京都府京都市醍醐中山町20番地2		
自己評価作成日	平成30年7月21日	評価結果市町村受理日	平成30年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル海湊町83-1 「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成30年8月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者様、ご家族の希望を踏まえて、お一人お一人がどのようにすれば毎日楽しく笑顔で過ごしていただけるかを常に考えています。現状団体で何か行動するという事よりも、個別、または少人数での活動をメインに行う事が利用者様も楽しんでいただけたらと考えそのように活動していく方針です。</p> <p>・今期の目標として、利用者様にこれまで以上に笑っていただくこと、健康を維持することを目標としています。</p> <p>・向かいが世界遺産の醍醐寺であるので気候のよい時にはできる限り散歩にでかけるようにしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(3階)と同じ</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本とし、毎年事業所の理念を決めている。平成30年度は「利用者様が健やかに笑ってすごしていただける場所にする」を理念とし利用者様一人お一人のADLの向上を図ること、職員のリスク管理能力の向上を目標としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常では近隣の散歩や地域のスーパーや売店に買い物に行くことで顔なじみを作るように心がけている。また地域の行事にはできる限り参加するようにしている。(醍醐小学校でのイベントなど)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年に社会福祉協議会主催のすこやかサロンに一階フロアを会場として提供しグループホームと小規模多機能居宅介護について説明させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見やご要望についてはリーダー会議や朝礼時などに報告し検討している。		

京都府 ラ・プラス樹楽 醍醐 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会には参加しているが現状ほかに連携することができていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	6月に第一回身体拘束委員会を実施身体拘束について再確認している。現状当ホームで身体拘束はないと認識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で受けた研修内容については、朝礼やリーダー会議、フロア会議などで話し合い何が虐待にあたるかなど各職員に説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については地域包括の職員に内容を確認している。成年後見制度について研修などに参加する予定。実際にあった事例について、区役所と権利擁護支援センターに相談して後見人を決めていただいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項、契約内容を説明し理解していただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、運営推進会議で意見をいただいている。いただいたご意見は議事録に記録し会議の開催月の翌月にご家族全員、地域包括、民生委員に議事録を配布している。		

京都府 ラ・プラス樹楽 醍醐 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から依頼があったときは随時時間をつくり話をする時間をとっている。昨年は全員一人一人面談する機会を設けた。本年度も実施予定。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年各職員の評価を行い昇給などに反映している。また職員の家族の状況によって勤務日、時間を考慮している。どのような研修に参加したいかも確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者会議やリーダー会議などで職員の力量について話し合い、力量にあった研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流については特に取り決めはなく自由に行える環境である。管理者においては同一法人の他事業所へはたびたび訪問している。昨年度は当ホームに地域の事業所の方々に集まっていただいて地域ケア会議を行った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談、面談の段階からご本人が困っている事、不安なこと、希望をご本人自身に確認し、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、面談の段階からご家族の思いや希望を確認し、できる限りご家族の意向、ご本人の希望に沿った生活をしていただけるようなプランを提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人とご家族がどのような支援を必要とされているか見極めて、場合によっては他のサービスの説明もしている。		

京都府 ラ・プラス樹楽 醍醐 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人を生活の場を共有する同じ立場の人であると認識を持ち、時には教えをこいながら一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族もチームの一員であるという認識を持ち、ご本人に何かあればその都度相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人に会いたいと希望があった時などは、ご家族などに連絡して実現可能か相談している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係は職員全員が把握し、それぞれが孤立しないように食堂の席の配慮や、居室にこもりがちの方にはこまめに訪問するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も継続的な関わりを必要とされる場合は関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。※退去後の利用者様のご家族からの相談などもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向をハッキリ話せる人には直接聞いている。そうでない方については普段の生活の中からご本人の意向を推察している。		

京都府 ラ・プラス樹楽 醍醐 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談、面談の段階でご本人やご家族に確認している。またこれまでのサービス利用の経過については各事業所から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状態の変化については毎日記録するとともに各職員に申し送りをして情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的に入居から1ヶ月、3ヶ月、6か月以降6か月ごとにケアプランを更新することとしているが状態に変化があるときはすぐに変更している。更新の際にはご家族に面会時や電話で相談し、日々の様子は各職員から日々情報収集している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子を詳しく記録し変わった事があれば業務日誌にも記録している。勤務交代の時には必ず申し送りをして情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせてできる限り柔軟に支援できるように努めるつもりである。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員からイベントの情報をいただきそのイベントにはできるかぎり参加している。消防署には年に2回防災訓練を実施していただいている。また図書館と契約して必要な情報を取り入れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に当事業所の往診医にかかっていたかどうかこれまでのかかりつけ医に通院していただくか選択していただいている。これまでのかかりつけ医から往診医に変更になる場合は診療情報を提供していただいている。		

京都府 ラ・プラス樹楽 醍醐 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない為体調に関することについてはその都度往診医に連絡して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会にいたり状況については適宜病院の相談員などに確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては現状おこなっていない。重度化した場合についての方針についてはその兆候がある場合早めに医師、ご家族と相談してどうしていくか検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はフロアに掲示している。初期対応については実際起こった事故の事例を振り返り対応を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。年2回は消防署員の指導のもと避難の方法を学んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護の研修に参加し研修で学んだことを職員間で共有している。声かけについて、指示的な言葉などの人格を尊重できていない声かけにはその都度注意している。		

京都府 ラ・プラス樹楽 醍醐 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩に出掛けたり、訪室する時はなるべくマンツーマンでお話するようにして、ご本人の思いや希望を伺うようにしている。ご本人が心地よく自己決定できるように話の展開や声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物に行きたいと希望があったときは、いけそうならすぐに対応している。すぐには難しい場合はご本人に説明して可能な時間を伝えている。また居室でゆっくり過ごしたい(読書をしたい)と仰る場合にはその意向を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要なかたについては整容の介助をおこなっている。月に一回訪問理容がありカット、毛染めなどの希望の有無(ご本人が伝えられない方はご家族の意向)を確認し依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみがもてるよう盛り付けを工夫している。食事は職員が利用者様と一緒に同じテーブルで食べている。準備や片付けについて、毎回ではないが盛り付けやテーブル拭き、食器を洗い、食器拭ふきは利用者様と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量については記録し各職員が把握できるようにしている。また摂取量の低下などについては医師に相談し、指示を仰ぐという流れができている。食事形態については一人一人の状態に合わせて一口大、トロミ、キザミでの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる利用者様については、毎食後声かけし口腔ケアをしていただいている。介助が必要な方については夜勤者が一人で行うことが難しいため昼、夕に介助している。		

京都府 ラ・プラス樹楽 醍醐 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行く事ができない利用者様で尿意、便意がある方については、その都度トイレに誘導している。訴えない方については定時にトイレに誘導、パット確認するなど利用者様の状態に合わせて介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し排便コントロールを行っている。水分摂取量の少ない方はこまめに提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決めてあるが、毎回ご本人の意志を確認している。拒否があるときは日にちや時間を変更している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを確立させてできるかぎり安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は複数で行っている。薬の説明書はフロアに置いておき各職員が確認できるようにしている。服薬による症状の変化については往診の際にその都度報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の性格、生活歴を勘案しその人に合った役割を職員と一緒にやっている。嗜好品についてはお酒、煙草以外の物であれば特に制限はしていない、おやつの買い物などによくでかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日などは日々散歩などかどうか希望を確認している。時々車でドライブしている。ご家族と出掛けられることもある。		

京都府 ラ・プラス樹楽 醍醐 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しいのでご本人には現金をもっていただかないようにしている。ただしいつでも買い物ができるようにご家族からおこずかいを預かりホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしてご本人にお話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は明るく清潔を保持するように努めている。日差しが強い時はカーテンなどで調整、湿度、室温はエアコンや加湿器で調整し気温、湿度は毎日計測している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一部にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来る限りこれまで自宅で使用していたものを持ってきていただくように説明している。現状各利用者様は自宅で使っておられたものを何かしら持ってきておられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室などわかりやすく表示している。		